

1770 | 教育実習 I

2 単位（面接授業 2 単位）

大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授

授業の概要と目標

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。

なお教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの 2 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

課題の概要

○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

授業計画

[面接授業]

「教育実習 I」のみの場合は 2 週間又は 3 週間、「教育実習 II」と併せて行う場合は 3 週間又は 4 週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

成績評価の方法

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

「教育実践の研究」の第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

[備 考] なし

教材等

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の研究」第 3 回面接授業時に配付

その他

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみtus 場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。